

第四章 結論

第四章 結論

4-1 本研究の結論

4-1-1 目的ごとの考察

目的1：家庭ごみ分別早見表等の種類や形態について

115 市から頂いた家庭ごみ分別早見表等の種類と掲載数，また，家庭ごみ分別早見表を提供している対象地は早見表掲載数を，各々の家庭ごみ分別早見表等に掲載されているごみの重複を省いて調査した結果，以下の3点が明らかになった．

- 1) 掲載数は大阪府岸和田市の 44 から滋賀県甲賀市の 1573 と様々ではらつきがある．
- 2) 早見表掲載数も兵庫県尼崎市 46 から滋賀県甲賀市の 1555 と様々ではらつきがある．
- 3) 早見表を提供する市ほど掲載数の多い傾向にある．

早見表掲載数が 200 以上，早見表に掲載されていないごみの掲載数が 200 未満，早見表を提供していない対象地の掲載数が 200 未満であることが多いためである．

目的2：どんな家庭ごみ分別早見表等，特にどのくらいの掲載数がわかりやすいのか

各対象地においてごみリストのごみが「掲載ごみ」，「不掲載／分別明解ごみ」，「不掲載／分別不明ごみ」のどれに該当するか，また各対象地の家庭ごみ分別早見表等に記載されている分別区分で，どこに分類されるかを記録した．これにより以下の2点が明らかになった．

- 1) 各対象地の「不掲載／分別不明ごみ」の数は 8～79（ごみリスト全体の 0.35%～3.47%）
- 2) 掲載数が増加するにつれ，「不掲載／分別不明ごみ」の数は，ばらつきながらも，ゆるやかに減少する．

また，家庭ごみ分別早見表等の掲載数は多ければ多い方が良いとも考えられるが，一から家庭から排出されるごみを想定されうる限りリストにまとめるのは労力と時間，また費用など様々な不便が生じると思われる．しかし，ここで各自治体の「足りないものだけを足す」と，全ての家庭ごみを網羅した家庭ごみ分別早見表等と同様の効果が得られると考えることができる．これにより以下の2点が明らかになった．

- 3) 各対象地の家庭ごみ分別早見表等の掲載ごみと「不掲載／分別不明ごみ」のごみの二つの合計数が各対象地における望ましい家庭ごみ分別早見表等の掲載数となる．
- 4) 滋賀県甲賀市が 1581 と最も多く，兵庫県淡路市が 93 と最も少ないがどちらも，その対象地の望ましい家庭ごみ分別早見表等の掲載数といえる．

目的3：どんな家庭ごみが分別の判断が難しいのか

各ごみリストのごみのうち「不掲載／分別不明ごみ」が1つでも該当するごみについて，「不掲載／分別不明ごみ」の多い順，そして「不掲載／分別不明ごみ」の少ない順に並べた．また滋賀県甲賀市の家庭ごみ分別区分で分類をした．これにより以下の点が明らかになった．

- 1) 「不掲載／分別不明ごみ」が1つでも該当するごみの数は，全部で 202 個あった．

- 2) 「収集不可ごみ」が特に多く、土砂類が上位に集まった。
- 3) 「埋立ごみ」の石や鉱物系のごみも上位に位置する。
- 4) 土砂以外の「収集不可ごみ」を大まかに分けるとリサイクル電池、エンジン搭載品、農業系ごみ、食用以外のオイル、化学薬品、建築廃材であった。

4-1-2 研究全体を通しての考察

家庭ごみ分別早見表等の掲載数は多ければ多い方が良いが、例えば家庭ごみ分別早見表を提供していない自治体や、家庭ごみ分別早見表等の掲載数が少ない自治体などが、家庭から排出されるごみを想定される限りリストにまとめることは、労力と時間、また費用など様々な不便が生じる。しかし、表 3-6、3-8 に掲載の、各ごみリストのごみのうち「不掲載／分別不明ごみ」が 1 つでも該当するごみの中で「足りないものだけを足す」ことで、3 章で調査を行った 10 市以外の自治体においても、全ての家庭ごみを網羅した家庭ごみ分別早見表等と同様または近い効果が得られると考えることができる。

4-2 今後の課題

ごみリストのごみの分類作業の結果を、各対象地の担当の方に見ていただき、分類作業の正誤について添削していただいて、ごみごとや対象地ごと、分別区分ごとのより正確な正答率を出すべきである。また、ごみリストのごみの分類作業は、今回近藤のみが行ったので、近藤のごみや商品についての知識に依存した結果になっている可能性があり、可能であれば多くの人々に分類作業を行ってもらい、それらの平均や最大最小で議論すべきである。

さらに、ごみリストのごみの分類作業は、本来 115 市すべてについて実施すべきだが、時間の都合で 10 市のみしかできなかった。家庭ごみ分別早見表等掲載数や「不掲載／分別不明ごみ」との詳細な関係や、ごみ処理方法という視点からの傾向をつかむためにも、115 すべてで実施する必要がある。